

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 4月号 (NO60)

2015年4月10日 (金) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】今年春一番が吹かない！

○春の天気は荒れると云うが、今日(8日)は天気予報通りの雪である。花冷えと云うが雪である。一日で10度の気温差があると調子を崩してしまう。着るものも困ってしまう。これから農作業を始めようとした意気込みの出鼻を挫かれた恰好である。二十日大根やレタス、カブなど種を購入し蒔こうと思ったが来週にしようとした。冷温では発芽は出来ないの良かった。24日に、柏の家の出窓でトマトとインゲンを種蒔きしたが、中々発芽しないので腐ってしまったかと、心配したが9日目にやっと芽を出した。発芽した後も温度が上がらないからか中々成長しない。そういえば今年春一番が吹かない。何か変である。



<積雪 3cm の朝>季節外れ雪で冬に逆戻り。8日撮影

○異常気象が常態化していると何度か書いているが可なりおかしくなっている。南極の一部で17度を記録しペンギンが驚く？北極では白クマが解氷で棲息圏を追われ雑交し白くない白クマ(人の手が加わっ

て?)が生まれている?とか地球温暖化の影響がじわじわと迫って来ている様で怖い。

○最大の環境破壊の戦争(紛争)などしている場合ではない。人類の知恵や文明は地球の生命体を守るためにこそあるべきと思うのだが、いまだに、ナショナリズムを煽り戦争の火種を作ろうとしている政権や世論があることが悲しい。“異常気候”が警告を発している事に、気が付くべきである。農作物の出来不出来のレベルの問題ではない。これから夏に向って竜巻や台風、豪雨などの異常気象が心配であるし怖い。

○そう云えば、地球温暖化対策の話題は少ない。国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)が今年の12月にパリで開催されると聞く。日本政府は再生可能エネルギーや原発の再稼働を前提に“2030年までの温暖化ガス排出量を、13年比で20%前後削減する新たな目標を打ち出す方向で調整に入る”と。また、“米国は25年までに排出量を05年比で26~28%削減し、中国は30年ごろを二酸化炭素(CO2)排出のピークとして、1次エネルギー消費に占める非化石燃料割合を20%に高めることを目指す”と、温暖化ガス排出量世界1位の中国と2位の米国が14年11月に合意していたことなどを9日の日経の記

事が伝えていた。人類の知性と理性に期待したい。

○“農業・農村が大事”が世の直しの処方箋になると信じ、農作業を楽しみたいと思っている。雪で止めた種を蒔きたい。自前の種芋で少し傷みがあったので、2日に植込みした里芋とジャガイモの発芽が心配になって来た。

＊カタクリについて（雑誌の記述を使って）

日本海側の多雪地では群生して生えることが多くその葉を採取し、茹でて乾燥したものを山菜として利用していた。芽生えてから開花まで6、7年かかり、地上に姿を現すのは1葉のみであるという。山菜に利用はしても間引くように採り、枯渴を防いだと云う。カタクリの球根から片栗粉を製していたが、今はジャガイモやサツマイモなどの澱粉が用いられるが、本来の片栗粉は白色で上品な淡い甘味があり、料理にも使われたが薬にされた。



＜吾国山のカタクリ＊＞久し振りにご近所の方々と。6日撮影

“ものものふの八十娘らが汲み乱ふ 寺井の上の榎香子の花” 榎香子＝カタクリのこと。大伴家持が越中（富山県高岡市）の国分寺で詠んだ歌である。

### 【楽農】畑の耕起と整備！

＜畑A＞；耕運機で耕起、片付けと剪定や播種と除草。

＜ハウス＞；耕運機で耕起、片付けと除草

＜畑B＞；トラクター耕起、里芋、ジャガ芋の植込

＊トマト、インゲンの苗の播種。

＊牛糞堆肥4t購入。家の周りの整理と刈り込みなど。

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他；ごみを考える会例会（12日）共生の会（12日）エコピア柏20周年の会（14日）水戸八景巡りの詩吟の会（1日）国立劇場伝統芸術情報館見学会（10日）に参加など。

＊3月も車検や娘の車の自損買い替えやイベントなどと雑事が多い。落ち着きのない生活が相変わらず続く、。



＜水戸八景の山寺の晩鐘＞斉昭公は水戸藩士弟たちを、八景地約80kmを1日に一巡させ、自然への親しみと心身の鍛練をさせることを計ったと。1日撮影

### 【つぶやき=Tweet】国立劇場伝統芸術情報館を見学！

○最初はUCカードから無料で配布されていると思っていた「てんとう虫」だが、最近では、毎月楽しみして読んでいる。4月号は、さあ！北陸へ！が特集されていた。北陸の関連でと思うが、水上勉の「越前竹人形」が紹介されていた。「土を喰う日々」（先号で読んでみると書いた）に、竹林や<sup>たけのこ</sup>筍のことが書かれていたので直ぐに読んだ。「雁の寺」は有名だが、ここに描かれた男女愛の形は、現実かは別にしても大きく違う。今は、生涯未婚、離婚、家庭内別居等が一般化している。男女愛は、もっと大事にすべきと思う。習っている詩吟に良寛のものがあるが貞心尼との関係など昔人のロマンの方が豊かであった様に思える。10日には国立劇場伝統芸術情報館を見学して来たが、文楽の曾根崎心中など日本人は豊かな愛の文化があった。古典芸能は親しむ機会が無かったが、映画で観た篠田正浩の「心中天網島」が思い出された。素晴らしい映画だったと中村吉衛門、岩下志麻が思い出された。増村保造の曾根崎心中の宇崎竜童も良かった。良い作品がいっぱいあった。



＜日本庭園の竹林＞水上勉の竹林の話を読んで撮って見たくなった。柏で、17日撮影

○同じ4月号に、高橋源一郎の“実篤さん、みつをさん、そしていまは、修造さん！”が載っていた。武者小路実篤の野菜のスケッチは子供の頃はよく見たが、今はほとんど見ない。新しい村には憧れた。相田みつをさんの“言葉”は、今も我家のトイレにあり、慎みや励ましを受けている。この二人の後を引き継いだのが松岡修造だと云う。錦織圭が世界ランキング4位に入るなど硬式テニスも大きく話題になっているが、松岡修造はテニスの人である。相田みつをさんの後を継ぐ人とは思ってもみなかった。最近マスコミでも取り上げられているらしい。

○少し引用すると”「崖っぷち ありがとう！最高だ！」・・・修造さんは、こう書いている。「崖っぷちは、本気になるチャンスです。追いつめられているわけですから、これほど無私の境地で最高のものを出せるときはないでしょう。崖っぷちには感謝すべきです。諦めたり、もう嫌だと思わずに、『崖っぷちありがとう！』と思うほど前向きな気持ちになりましょう」。これなのだ。この気持ちこそが、修造さんを、第二（第三？）の実篤さんやみつをさんにしたのである。“と高橋源一郎が書いていた。「松岡修造の人生を強く生きる83の言葉」（アスコム）には題名通りの人生を強く生きる言葉があるようだ。出来たら読んで見たい。

【後記】 山々が芽吹き始め、日一日と彩りを変えて来ています。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；[torao-k@nifty.ne.jp](mailto:torao-k@nifty.ne.jp)

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>